# 令和7年6月定例会の概要

## 予算　本定例会における主な補正予算の内容

| 項目 | 内容 | 補正予算額 |
|---|---|---|
| 定額減税補足給付金の支給 | 給付額が当初予算を上回る見込みとなったことによる増額 | 34.5 億円 |
| 中学校教諭の公務災害に係る訴訟における和解金 | 中学校教諭の公務災害に係る損害賠償請求訴訟についての和解金 | 0.6 億円 |
| 学校情報通信ネットワーク環境の改善 | ネットワーク環境調査の結果を踏まえ、小学校144校、中学校63校、高校13校、特別支援学校4校の学校内の通信環境の改善を実施 | 17.0 億円 |

## 人事　杉浦新教育長が誕生

任期満了を迎えた坪田知広教育長の後任として、前総務局長である杉浦弘昌氏を教育長に選任する人事案が提出、可決されました。

## その他　議員辞職勧告決議案について

アジア・アジアパラ競技大会のボランティア募集をめぐって、無断登録を行っていた議員に対する辞職勧告決議案が審議され、反対多数で否決されました。多くの方からお問い合わせをいただきましたが、大島はこの議員辞職勧告に賛成しました。政局的な対立を煽るようなことをするつもりはありませんが、「客観的に見て反対する理由がない」と判断したためです。

## 皆様の声やご意見、お聞かせください！

「大島ひでひろ市政報告」をご覧いただき、誠にありがとうございます。
皆様の声を市政に届け、より良い名古屋をつくるための仕事を全力で進めてまいります。市政へのご意見やお困りごとなどございましたら、お気軽にメール（hidehiro.oshima.ra@gmail.com）もしくは、公式LINE（右記QRコード）までご連絡ください。
どんな内容でも、お気軽にお問い合わせください！

公式LINE

発行責任者：名古屋市会議員　大島 英勲
〒465-0047 名古屋市名東区小池町60三和マンション1階
Tel/070-8909-9716　Fax/050-3094-8895
E-mail/hidehiro.oshima.ra@gmail.com

各SNSで市政情報など日々発信中！
フォロー・いいね！お願いします！
大島ひでひろ

身を切る改革、維新だからできる。
日本維新の会

日本維新の会　名古屋市会議員（名東区選出）

# 大島ひでひろ 市政報告 vol.9

～ 古い政治を壊す。新しい政治を創る。 ～

## いつもありがとうございます

いつも大島ひでひろの活動にご理解・ご支援をいただき
本当にありがとうございます
この7月には、参議院議員選挙が行われました
日本維新の会をご支援くださった皆様、
本当にありがとうございました
結果は悔しいものでしたが、必ず次へと繋げてまいります
そして、参議院でも与党が過半数割れを起こすなど
政治に変化が起きようとしています
我々政治家の務めは、聞こえの良い言葉を並べることではなく
今、必要な政策を本気で練り上げ、形にすること
このことを肝に銘じ、引き続き今いただいている職務に
身を賭してまいります
引き続きのご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます

名古屋市会議員
大島ひでひろ

昭和60年名古屋市生まれ/愛知県立明和高校、中央大学法学部卒/
郵便局㈱(現・日本郵便㈱)入社後、社長秘書、経営企画部など歴任/
愛知維新の会事務局次長を経て、令和5年名古屋市会議員選挙(名東区)初当選/
現所属：日本維新の会名古屋市議団

令和7年6月定例会
個人質問

# 「名古屋における男女共同参画の考え方について」

平成11年に「男女共同参画社会基本法」が施行されて以降、名古屋市も「性別にかかわりなく、個性と能力を十分に発揮できる社会をめざす」と掲げ、取組みが行われてきました。多様な価値観が尊重されるべきことは、改めて言うまでもありません。しかし、この「男女共同参画」の文脈では、生まれ持った性について語ることが憚られるきらいがあることに違和感を感じています。

個人的に大切だと思うのは、「性別にかかわりなく」ではなく、性別による違いを認め、尊重し、女性も男性も性的マイノリティの方も、それぞれの価値観が守られ、生きやすい社会をつくることだと考えます。賛否両論あるテーマですが、それを承知の上で、大切なことだと考え、問題提起しています。

大島ひでひろ

## Q.市が市民の価値観を否定するべきではない

6月に、『「女らしさ・男らしさ」から自由になるため』と題したセミナーが、名古屋市主催で開催されている。このセミナーの講師は、ネット上で「フェミニスト弁護士」と形容される方で、著書の中では「有害な男らしさ」といった言葉をくり返し使い、それが社会にとって“害悪”であるかのごとく、否定的なスタンスで持論を展開しており、税金を遣う市の事業で講師を務めるには「中立性に欠く」と思われても仕方が無い人選。

**参考** 実際、大島のもとには多くの市民、その多くは女性の方から「自分の価値観が市に否定されたようで不快だ」「なぜこんなセミナーに税金を遣うのか」といった声が寄せられました。

一方では「多様性の尊重を」と謳いながら、他方で別の価値観を害悪と捉えるような考え方を税金を遣って、市が主体となって発信することは、大きな矛盾。本当に多様な価値観に寄り添うためには、今後この男女共同参画における事業検討にあたって、市民の声をもっと真摯に受け止め、中立性や公平性に配慮がなされるべきだと考えるが、見解を伺う。

スポーツ市民局長

## A.価値観は他者から押し付けられるべきものではない

男女共同参画を推進する立場から、その実現に向けた課題の解消に取り組んでいるが、個人の意思により、それぞれのライフスタイルを選択することは尊重されるべきものであると考えている。

市民一人ひとりに異なる価値観やライフスタイルがあり、それらは他者から押し付けられるものではないと認識しており、こうしたことに配慮しつつ、男女共同参画事業を適切に進めてまいりたい。

大島ひでひろ

## Q.この事業を通じて、どんな社会をつくるのか

様々な調査結果(「参考」参照)を見ても、市民の価値観は様々。「とにかく外で仕事をしたい」「キャリアアップしたい」と考える方ばかりではなく、「子どもの側で子育てをしたい」と望む女性もいる。もちろん、働きたい方には女性であれ男性であれ、どんどん働いていただくべき。そして、「子どもを産み、育てたい」と望む方にはそれを支え、安心して暮らせる社会をつくることが、少子化が深刻化するこの国において、重要ではないか。今の名古屋のスタンスは、それを望む方々を否定しているように聞こえかねない。

**補足** 国の調査によれば、子どもが生まれて間もない、正社員で働く女性のうち78%が「仕事と育児の両立の希望」調査で「長期休業を取得して、子育てをしたい」と回答しています。

【希望する仕事と育児の両立のあり方についてのアンケート】

| | |
|---|---|
| 長期の休業を取得して、子育てをする | 78.0% |
| 子どもや配偶者・パートナーの状況に応じて、休業・休暇を取得する | 8.2% |
| 仕事のある日はできるだけ残業をしないようにして子育てをする | 2.9% |
| 残業をしながらフルタイムで働き、土日祝日や定休日を中心に子育てをする | 0.7% |
| その他 | 10.2% |

《回答者》
子が生まれて間もない、正社員で働く女性
《出所》
厚生労働省
「仕事と育児等の両立支援に関するアンケート調査」(令和2年度)より抜粋、大島作成

そもそも、「ジェンダー平等」の考えが生まれた西洋と日本では、歴史的な背景も家族観も、大きく異なる。それらを度外視して、今回のセミナーで「傷ついた」という市民の声を置き去りにして、名古屋市はどこに向かうのか。

機会や選択肢が平等に得られる社会をつくることが肝要であり、その結果、市民が選択をしたのが男女共同参画の理念とは別の、「日本の伝統的な家族観や自分が生まれた性に対する誇りを大切にしたい」という価値観であった場合、それは果たして問題なのか。市民の意思を尊重し、お困りの方に必要な支援をして生きやすい社会をつくることが、行政の役割ではないかと考えるが、広沢市長の考えを伺う。

広沢一郎市長

## A.誰もが自由に生き方を選択できる社会を目指す

市民一人ひとりが、多様な価値観を持ち、市民が自分の意思で納得して生き方を選択することは、当然に尊重されるもの。たとえば、歴史の中で、現に専業主婦という生き方があるのも事実であり、そのような選択を否定するものではない。いずれにしても、名古屋市は、男女共同参画の取組みを進め、誰もが自由に生き方を選択できる社会の実現を目指す。

**動画はコチラ** 本会議質問の様子は、動画をYoutubeにアップしています。ぜひ右記QRコードからご覧いただき、ご意見をいただけたら嬉しいです！ →